



丹波浪人

巷の塵

東京府道路工事に飛ぶ

東京市が其の領域を擴張し、郡部を吸収する事に爲つて十月一日から夫れが實施される譯だが、こゝに端なくも問題と爲つたのは、目下知事が執行してゐる都市計畫道路の工事をドー始末するかの問題である。理窟的に言へば固と東京市長が執行しなければならぬ都計の道路を、東京府知事が執行してきたのだから矢張り東京府知事が夫れを執行すれば可いのだが、道路法に於ては六大都市内の道路は市長が管理する制度に爲つてゐて、假令知事が都計道路を改良しても管理権が無い譯で仕事をするのに非

常な困難を伴ふ。夫ればかりではない政府が産業振興策として東京府に渡した補助金も返還せなけりやならぬ、と言ふことに爲つて俄に慌てだした。

内務省へ道路法の改正を要求して知事が管理権を持つて従前通り工事を執行したいと懇願したが、夫れを統制して市長が執行するのが市郡合併の最大目的とする所であるのに、夫れに逆行して道路法を改正することは斷じて許さないと、撥ねつけられたが、そうなるに折角自論んだ大道路事業を市に渡さなければならぬ府の役人は、市の吏員に格下げされ市に行けば官吏の恩給は棒に振らねばならぬ、千人近くの役員生活問題となるので市郡併合を今更のやうに憚んでゐる。

都市の合理的統制を策するのは結構なことで固より異論はない、併しながら併合の爲に生ずる萬般の結果に想倒してことを策さなければ右様の結果を生ずる。政友會内

閣が一時の人氣を博する爲にことを急いだ爲だと言はれてゐるが、そうであれば之も矢張り既成政黨の罪である。

鐵道省の交通統制委員會

阪谷芳郎男爵を會長とする日本交通協會とやらが、鐵道省に設けられた交通統制委員會に對して、其の委員會の設置を謳歌し委員會に附議さるべき案件を交通協會へ諮問して呉れと言ふ建議をしたと傳へられてゐる。成る程交通の統制は望ましいことであつて、早く其の實現を希望するのであるが、交通機關には色々の種類があつて其の機能を發揮せむとしてゐる。従つて是等交通機關を統制するが爲には各種交通機關を指導監督してゐる主務省の總てが協力して交通對策を樹てねば理想的に交通の統制を行ふことは出来ない。夫れにも不拘國有鐵道を経營し既に陸上交通の一部を管理してゐる鐵道省だけが交通統制委員會を設けても其の効果は知るべきのみである。筆者が

常に敬慕してゐる東京地下鐵道の専務早川徳次さんが、國有鐵道の賃金制度の不當なことを責めて、かゝる不合理極まる賃金制をとつてゐる鐵道省が、今交通事業の統制を計らむとしてゐるのは、丁度酒のみの親爺が自分のことを棚に上げて息子に禁酒を強いるものと同じだと評されてゐるが、(交通展望第一巻第四號)夫れは寔に肯綮に當つてゐる。

交通行政統一の問題は、常に論議さるゝところであるが、容易に實行されない。夫れは各省が互に其の權限を主張して譲らない結果である。言葉を変えて言へば官吏の慾望を満足せしむるが爲に交通機關の不統制を來すことに爲るのであつて、寔に馬鹿らしいことだ。現内閣は是等の缺陷を矯正して民衆の實生活に即した行政を行ふと言はれてゐる。之を策することは官吏の身分保證に關する問題よりは、より以上の急務である。而して此問題は協力内閣の手に依

つてのみ爲し遂げ得べき問題である。

國際觀光道路設置問題

第三回全國産業協議會で國際觀光道路の設定を主務大臣に提出した。自然美に恵まれてゐる我國を海外に披露して多數の觀光客を招くことは結構なことである。之が爲に觀光道路を設定することも否むべきではない。併しながら觀光の爲に使用さるべき道路は矢張り普通道路であつて、此普通道路が完全なものであれば觀光客の利便になる、従つて筆者共は普通道路の改良を絶叫して已まない。こゝ四五年前から歐洲の例に習つて觀光政策を強調する人々が殖えたが、夫等の人々の志すところや爲す所を見ると全く兒戯に等しいものが尠くない。道路の改良は國際的に見て必要なものに就ては相當に計畫されてゐる、唯た憾むらくは財政に禍されて實行が出来ないだけのこと、各人が是等計畫の實行難を打開して其の進捗を見るやうに、當局を鞭撻しなければ

ば百の建議も千の陳情も何等の効果を見ないであらう。

寄稿家披露

▽大口喜六さん。筆者が茲に紹介するま



でもない程に、世間に知られてゐる田中内閣時代の大藏政務次官、今は議會に絶對多數を

占むる大政友會の顧問、衆議院に於ける財政通である。

氏は明治三年五月豊橋市に生れ、東京帝國大學醫科藥學科を卒業して藥劑師と爲り家業を繼ぎ、明治二十八年豊橋町會議員と爲つてから政治に趣味を持ち、郡會議員縣會議員と言つた調子に漸次地方議會に於ける議員振りを體得し、明治四十五年に衆議院議員に當選して以來當選七回に及び政友會の重鎮と爲るに至つた。

氏は地方議會に多くの經驗を持つばかりでなく、豊橋に市政が施行されてから大正五年まで豊橋市長の職に在つて、地方行政の實際に携はれた、従つて中央政府の方針が市民生活の實際に適合してゐるか否かに就ては苦い經驗を持つてゐる、此體驗から割り出して議場で論戰するのであるから氏の論鋒に見舞れたものは常に兜を脱ぐ者が多いと言はれてゐる。

慥か原内閣時代だつたと思ふが、政府の道路會議員に任命され、我國に於ける最初の道路政策の確立に盡力された。夫れだから濱口内閣時代に於ける下院の豫算總會で「安達内相は我國の道路政策の樹立に關する經過を知つてゐない」と責められたこともあつた。夫れ位に有名な路政通である。氏はいつも道路會議の復活を要求されてゐるが、交通には國境がない、と昔から言はれてゐる位だから政黨政派には勿論のこと一地方に偏しない道路政策を立てねばならぬ

夫れが爲には道路會議の復活は是非實現せしめたい。筆者等が夫れを所望してゐるとき、大口さんの名論を聞いて世に偉大な同志を得たことを喜んでゐる。

紳士録に載せてゐる所に依ると、氏の趣味は日本歴史の研究と謠曲と彫刻建築。と見えてゐる。帝國議會でも氏を目して奇聲居士と言つてゐる位だから謠曲は何だか變に聞えるのであるが、日本歴史の研究に至つては一大見識者である。内務省の田中好君が史實を尋ねて東海道行脚に出たとき、氏の郷里豊橋に於ける史實に澤山な疑問を抱いて東京を出發したそうだが、同地に於て大口さんの豊橋史料を見るに及んで疑問は忽にして氷解したと言つてゐる。夫れ位に權威ある史家である。

▽野村兼太郎先生。先生と呼ぶ所以は母校慶應義塾に教授として教鞭をとられてゐるからである。氏は明治二十九年三月お江戸は京橋の具足町に生れた人。大正七年

慶應義塾大學理財科を卒業し、同時に同大



學助手として大學豫科に於て經濟原論を擔任されてゐたが、大正十一年經濟史研究のため

歐洲に留學されケムブリッヂ大學やキングスコレッヂに入學され十四年歸朝して現職に在る。

氏は慶應在學中故阿部秀助教授の研究會に於て研究を重ね、經濟哲學に深い造詣を有してゐる。專攻する經濟史に於ては我國學界の一大權威であつて其の所説は、著書經濟史研究第一卷、英國資本主義成立史や英國經濟史及學說等々に依つて窮ひ得ることが出来る。殊に助手時代に執筆された、「經濟的文化と哲學」は當時若き學徒をして歎賞せしめたものであつて、義塾に於て有名であつた故堀江博士も氏の非凡な學識に驚かれたと言ひ囁かれてゐる位に篤學の

人である。

▽藤井眞透君。明治二十二年宮崎縣都城



町の産、大正三年東大土木工學科を卒業し、大阪や兵庫の技師として勤務されたが、大正

六年明治神宮造營局技師に轉し、明治神宮

の内外苑に於ける土木工事の設計から實施監督の任に方り、十三年内務技師を兼任して内務省土木試験所に關係を持ち、昭和二年試験所の専務と爲つた。這般米國に開かれた萬國道路會議には帝國を代表して出席し、歸朝後早々論文を提出して工學博士の學位を得られた。

氏は温厚にして女性肌の人、此點に於ては所長物部博士と頗る相似てゐる。試験事務は矢張り此型でなければ完全を期し難いものであるカナ。とは同試験所を訪れた總ての人の頭に浮ぶ感想であらう。

氏の記憶力の強いことは有名なものであ
る。問題ある度に疑問があれば先づ氏に伺
を立て説明を求むると言ふ調子に、重寶な
頭の持主である。氏が造營局時代に仕えた
今は某長官N氏も記憶力の強いことで有名
な人だが、藤井君の夫れには到底及ばな
かつたと見え、今でも氏の記憶力を賞えて
ゐる位に可い頭の持主である。

筆者が披露すべき範圍は以上で責任解除
であるが、筆の序でと言ふと失敬だが、氏
にお願することがある。夫れは氏が體得し
て來た道路技術に關する總ての事柄を加速
度的に我路政界に報導して呉れることであ
る。或る人の言ふ所に依れば、土木試験所
が試験の範圍を擴張したが爲に研究費の都
合が附かないので夫れを許さないと言ふ
ことであるが、經費に禍されて研究の發表
が出来ないとすれば所謂寶の持ち腐れに終
る。萬一にも經費の都合以外に氏の研究を
妨ぐる何物かとあれば、夫れを打破するは

易々たることである。何とか都合を附けて
筆者の希望を實現されたい。

▽高田昭君。明治三十一年三重縣名賀郡



依那古村の産、大
正十一年東大理學
部地質學科を卒業
し、直ちに内務省
土木試験所に入り

十三年四月内務技師となり現在に至る。

氏も亦藤井君と同じやうに學者肌の人、
土木工學否な土木技術に最も緊密な關係を
持つる地質に關する試験を擔任し、往々技
術官に見るやうな野心を捨てて孜々として精
勵されてゐる若き學徒である。十三年以來
の研究は我が土木界に多大の貢獻をした。
夫れで斯界の人々は氏の將來に多大の期待
をかけてゐる。

▽池本泰兒君。明治三十二年高知縣長岡

郡大笹村の産、大正十一年熊本高工土木科
を卒業し、直ちに内務技手と爲つて本省の



土木局第一技術課に奉職されたが、其の學

識と手腕とは群を

抜いてゐるので、

従來に於ける内務

技師の採用標準

學士でなければ技

師に任用しないと

言ふ舊型を打破つ

て否な

に

方つてゐる。

技手時代に道路技術に關係してから夫れを專攻し、普通人の爲し得ない研究と努力とを拂つた。で若い大學出の工學士連が池本君にたて附いて見ても其の識見に屈せざるを得ない、夫れに加えて高知縣人固有の意氣があるのと、活辯みたいなネクタイとは愈々氏をして名物技手に爲らしめた。彼の眼中には帝大も高工も何の區別もない、唯だ何事も理論に合致してゐれば請け入れるが、夫れに違つたものは上官の命令であ

らうと誰の要求であらうとを問はずに却下する、此場合にいつも言葉をやわらげて、若し私の意見が間違つてゐましたらドーズ敬えて下さい。是は氏が相手に對し否な捧げる言葉であつて、教え得ないものはいつの間にか退却すると言ふ戦法を以てする、男性的な氣持の可い人である。

いつも本誌に「地方道路の所見」を載せて批判してゐるが、所論の前には先輩も何もないので蔭口を叩いてゐるものもあるやうだが、筆者は路政改革の爲に大に歓迎する。此頃は全國に於ける技手階級の團體を組織して牛耳をとつてゐられるやうだが、餘り深入りし過ぎると折角氏の得た聲望を損するに至るであらうとは獨り筆者の懸念だけではない切に自重されむことを望む。

自己紹介 自分のことを麗々しく披露することは餘り感心した事柄ではない、筆者を丹波浪人と言ふ、口善悪ない連中は、丹波篠山山家の生れ。と言つて自分を猿投に

するが京都府人で兵庫縣人ではない、都會に憧れてお江戸に來た程利巧な者ではないが、流れ々々て何時の間にか江戸生活をするに至つた、従つて浪人と呼ぶ。人或は自分を路政僧こと田中好君と混同してゐるやうだ、彼も迷惑なら私も迷惑、餘り感違ひしない様にお願ひしたい。

青春の志を遂げむとした譯では無かつたが、ふとしたことから法律學校に通つたのが病の根、夫れが親父の理屈ばい遺傳に禍されて一層増長し勝手氣儘な行動をしだしたものだ、で、片田舎では相手にして呉れない、流れざるを得ざるに至らしめた、生れ附きの本性を表はして路政を論究さして貰つて居るに過ぎない、言はずに言ふものの、斗酒尙壯者を凌ぐの外論鋒未だ鈍らざるを唯一の力として、爲すべきを爲し言ひたきを言つてゐる。此意氣を可愛がつて貰ひたい。之を以て自己の紹介とする。